



ふるさと

第五十二号
特別養護老人ホーム
アミニーキ

お花見



一月十日に新年会を行いました。今年の年男・年女の利用者様は五名でした。施設長の挨拶から始まり、年男・年女の利用者様の紹介、新年会実行委員会からの出し物（お手玉、傘回し、笛の演奏）、利用者様よりご挨拶をいただきました。職員からの出し物では、皆さんの笑顔が見られ楽しい時間を過ごす事ができました。

年男・年女の利用者様だけではなく他の利用者様も参加され、施設全体でお祝いすることができました。



「新年会」



1A 「日常の様子」



1Aユニットでは、お昼休み後にリハビリを兼ねて梅干し体操を行っています。職員の動きを真似ながら皆様、一生懸命体を動かしています。

またレクリエーションとして、こたわぎクイズや昭和のスター名前当てクイズなども行っています。皆様記憶力がとても良くスラスラと答えます。「これ楽しいね」「もっと答えたい」と好評で、笑顔で楽しい時間を過ごされています。



1B 「芋餅入りお汁粉」



一月三十一日に寒い冬だからこそも心も温まる企画として、お汁粉作りを行いました。お餅の代わりにじゃがいもを使用し、皮剥きでは、ピーラーで慣れた手つきで「こんなの当たり前だよ」と上手に皮を剥かれています。茹でて潰したじゃがいもに片栗粉を入れてこね、食べやすい大きさに形を整えたら画面に焼き色をつけて芋餅を作っていました。

こし餡で作ったお汁粉に芋餅を入れ、ユニット特製のお汁粉が完成しました。芋餅は「やわらかくて、お餅を食べているみたい。」と大変喜ばれていました。



1C 「チョコクレープ作り」



二月十四日のバレンタインデーにおやつ企画として、チョコバナナクレープを作りました。利用者様にはバナナを切って頂いたり、焼きあがった生地チョコレートや生クリームを塗って頂きました。

自分で作ったクレープを「美味しいよ」と召し上がる様子や「ありがとう」と、とても喜んで頂きました。



2A「肉まん・桜茶」



三月二十九日ユニット企画として、肉まんを作りました。調理中は「娘の頃はよく餃子を作ったんですけどね」「これが形良くできたね」「良い匂いがするね」など、会話も弾み完成を楽しみにさわれていました。中庭の桜も丁度見頃を迎えた事もあり、二階廊下にてホ力ホ力の肉まんと桜茶をお供にお花見を行い、「綺麗ですね」と皆様多くの笑顔が見られました。

肉まんと桜茶で舌鼓を打ちながら、短い時間ではありましたが、桜を鑑賞し、春の訪れを感じていただけたのではないのでしょうか。



2B「ピザ作り」



利用者様から「食べてみたいね」と要望があり、初の試みとなる「ピザ作り」に挑戦しました。利用者様も調理に参加し「作る楽しさ」を堪能して頂きました。利用者様には、生地をこね伸ばす、具材を切る、具材やソースを生地に乗せるなど、各々役割をもっていたことができました。ピザを焼き始めると、リビングいっぱいには香ばしいチーズの香りが拡がり、「いい匂いだね」と利用者様は勿論、職員一同待ちきれずに何度も蓋を開けてしまいました。

焼きあがったピザは、とろりチーズで具沢山の味や見た目は語るまでもなく大好評。バックミューシックも手伝って、まるで洒落たカフェでのひと時を思わせるような時間となりました。初の試みで慌ただしい場面もありましたが、大盛況のうちに終わることができました。



2C「合同調理・巻きずし」

節分の季節と利用者様からの希望もあり、栄養課と合同で巻きずし作りを行いました。昔からよく巻きずしを作っていた利用者様もあり、手際よく上手に仕上がりました。久しぶりに自分で作り食べることで、嬉しそうな表情が多く見られました。「自分で巻いたから美味しいね」との声が聞かれ、とても有意義な時間が過ごせました。

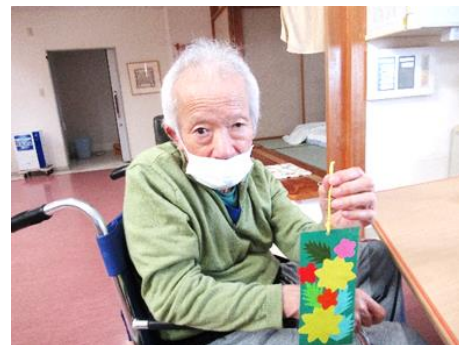


デイサービス「栞作り」

デイサービスでは指先の機能維持・向上と、季節に沿った作品を作り、感受性を刺激することを目的として、毎月様々な作品作りを行っています。

一月に行った作品作りは桜や福寿草といった春の花をテーマに『栞作り』を行いました。利用者様には見本を参考に作り組んで頂き、元となる白紙は自分で気に入った色画用紙を選び、好きな春の花を貼り付けて頂きました。「花びらの位置はここら辺がいいかな?」と真剣な表情の方や、麻痺がある方も健手を使い糊付けをし、それぞれのペースで楽しそうに作製されていました。栞には各々好きな言葉を書いて頂き、中には「春よこい」と春を待ち焦がれる言葉を書かれた方もいました。

完成した栞を手に、「桜の花が綺麗ね。福寿草も素敵ね」と感想を伝えあったり、「部屋に飾ります」「読んでいる本に使います」と嬉しそうに話されていました。



サーマルカメラを設置しました

アミキキ事務室

公益財団法人JKAが競輪とオートレースの売り上げの一部で行う補助事業（新型コロナウイルス感染症の拡大防止策）により、令和四年一月にサーマルカメラ2台を設置しました。これまでは事務所職員が表面温度計を来訪者の額に当てて検温していましたが、サーマルカメラの設置により検温する側もされる側も負担軽減になりました。長引くコロナ禍で、感染対策にかかる負担を軽減することは重要だと思います。群馬県や伊勢崎市、一般の団体などが様々なコロナ対策の補助事業を行っています。アミキキでも補助事業を活用しマスクやプラスチックグループ等の感染対策用品の購入、オンライン面会のための設備工事等を行いました。事務方としても、利用者様が安心して過ごせるよう物品の確保や設備整備を行っていきたいと思います。



検温の様子

